

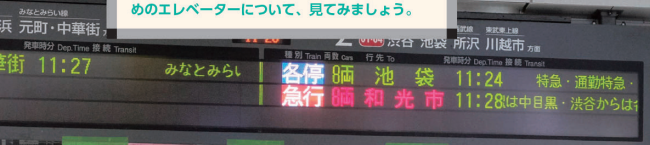




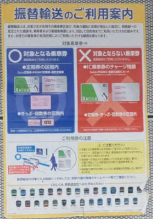
町を歩く工夫②

駅のエレベーター

多くの人が利用する駅には、いろいろなバリアフリーの工夫が見られます。上下の移動を助けるためのエレベーターについて、見てみましょう。



女性専用車のご案内
平日始発～9時30分までの全列車
1号車は女性専用車です



東急電鉄東横線の学芸大学駅。入り口にエレベーター、階段、エスカレーターがならんでいる。3つの設備をならべた駅では、乗客は自分ごとの方法を使うべきを考え、またその時どきの混み具合を見て、使いやすいものをえらぶことができる。このように性質のちがう3つの設備が同じ場所にそろった駅が、少しずつふえていく。



Q どんな場所にあるの？

A 地上と改札口、改札口とホームをつなぐ場所

改札口やホームが地上2階や3階にある駅や、地下鉄の駅などでは、電車に乗りたい人は上下の階に移動しなければなりません。上下に移動するための設備として、階段やエスカレーターのほか、エレベーターが取りつけられています。

エレベーターは町のさまざまな場所にありますが、上下の移動が必要な都市部の駅では、多くの場合、設置されています。



着えてみよう！

駅のホームにも改札口とをつなぐエレベーターがある。

きみがエレベーターに乗りとうと持っていたら、ペビーカーをおす人が後ろから来たよ。こんなとき、きみならどうする？



段差を見分けやすいよう、赤と黄色の印がある駅の階段。階段も大切な上下移動のための設備だ。

調べてみよう！

きみの町では、エレベーターはどこにどこにあるかな？

Q なぜ、つくられたの？

A 階段を上り下りできない人も
みんなが駅を利用できるように

駅に階段しかなかったら、階段を使えない人は電車に乗ることができません。エスカレーターがあっても、安全に利用することに不安を感じる人もいます。駅を利用したい人みんなが、自分に合った方法をえらんで安心して移動できるように、

エレベーターもつくられました。

エレベーターは、車いすを使う人やベビーカーをおす人にとって必要な設備です。階段やエスカレーターでは、安全に移動できないからです。

そのほかにも、お年よりやけがをしている人など、エレベーターを必要としているさまざまな人がおり、外見ではわからない人もいます。

考えてみよう！

「外見ではわからないけれどエレベーターを必要としている人」には、どんな人がいるかな？



考えてみよう！

3つの方法からえらべることが、なぜ大切なのかな？

Q 上下の移動にはどの設備が使いやすいですか？
A エレベーターです。

エスカレーターは待たずにはすぐ乗るので便利です。ただ、動いている段から動かない地面に降りるとき、つんのめって転びそうになるのでこわいです。若齢を急いで歩く人の足が杖にひっかかることもあります。だから私はエレベーターのほうが安心です。

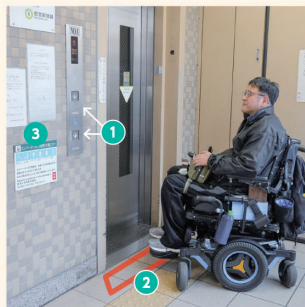
使いやすいするための工夫

エレベーターの外観

工夫① 押ボタンは、車いすにすわったままおせるよう、低い位置にあります。

工夫② 入り口の幅は広く、段差もありません。車いすやベビーカーが通りやすくしてあります。

工夫③ 入り口には優先マークがはってあり、車いすを使う人やお年よりなど、優先して乗ることができる人をしめています。ただし、このマークの人たち以外にも、優先される人はいます。



エレベーターの中

工夫④ 車いすにすわったまま操作できる位置に、操作パネルがあります。とびらがふたつある場合は、右手でも左手でも、またどちらのとびらから乗っても操作できるように、左右にあります。

工夫⑤ 操作パネルのすぐ下には、お年よりなどがつかまることのできる手すりがあります。

工夫⑥ スピーカーから、満員時や非常時にアナウンスの音声の流れます。

工夫⑦ 車いすにすわりながら後ろを見ることができるよう、ドアの上にバックミラーがあります。

工夫⑧ ドアやかべには大きな透明の窓があります。非常停止時に、外のように見ることができず。



エレベーター内の操作パネル、目の不自由な人のために、とびらの閉じ開きボタンや上昇ボタンと下降ボタン、非常呼び出しボタンの左側または右側に、それぞれ点字がつけられている。

駅などに見られるふたつの方向に出入口のあるエレベーターは、車いす使用者が向きを変えずに乗り降りできるので便利です。どちらの方向から乗っても便利のように、操作パネルや手すり、バックミラーがふたつずつある。

みんなが過ごしやすい町になるためのバリアフリーの工夫について、調べて報告文を書いてみましょう。ここでは、駅のエレベーターについて調べた報告文を紹介します。

この本で調べた報告文の例

みんなに便利な駅のエレベーター

5年1組 青木京子

1. 調べたきっかけ

おばあちゃんといっしょに出かけたとき、おばあちゃんはひざがいたいと言って、駅でエレベーターをさがして乗った。駅のエレベーターが、ほかにどんな人の役に立っているのかを知りたくなったので、調べることになった。

2. 調べ方

大きく分けて、二つの方法で調べた。一つ目は、実際に駅に行き、エレベーターがどんな場所にあるかを確かめた。二つ目は、本を読んで、駅のエレベーターがいつからあるのかなども調べた。

3. 調べて分かったこと

私の家からいちばん近い〇〇駅を調べたら、駅の入り口の、階段とエスカレーターから少しはなれたところにエレベーターがあった。「みんなが過ごしやすい町のバリアフリー」には、駅のエレベーターがあるのは「地上と改札口、改札口とホームをつなぐ場所」と書いてあった。そして、エレベーターは車いすを使う人やベビーカーをおす人にとって必要な設備で、「そのほかにも、お年よりやけがをしている人など、エレベーターを必要としているさまざまな人がおり、外見ではわからない人もいます。」と書いてあった。

駅にエレベーターができたのは、1980（昭和55）年、大阪市営地下鉄谷町線の喜連瓜破駅でできたのが最初だったそうだ。

4. まとめ

みんなが駅を利用できるように、階段とエレベーター、エスカレーターの三つをつくってあることがわかった。車いすを使う人やベビーカーをおす人はエレベーターしか使えないから、必要な人がエレベーターをいつでも使えるように、こんでいるときは階段やエスカレーターを使おうと思った。

参考 「みんなが過ごしやすい町のバリアフリー」小峰書店（2022年）

駅のバリアフリーのうつつりかわり年表

西暦	できごと
1925	駅に初めてエスカレーターができる
1980	駅に初めてエレベーターができる
1991	国が、新しい駅や大きな駅にエスカレーターを設置する考えをしめす
1993	国が、駅にエレベーターを設置する考えをしめす
2000	鉄道バリアフリー法ができる
2011	バリアフリー整備の基本方針が1日に5000人以上利用する駅から3000人以上の駅に改正される
2021	エレベーターなどの設備率が95.1%となる（1日に3000人以上が利用する駅）

15ページの「どんな場所にあるの？」から、文章を引用しているよ。

16ページの「なぜ、つくられたの？」から、文章を引用しているよ。

18ページ「駅のバリアフリーの始まり」を読んで、わかったことを書いているよ。

18ページから、年表を引用しているよ。

コツの②～⑤は2巻～5巻を見てね!

「調べたきっかけ」をかならず書こう

左のページの報告文の例では、ひざがいたむおばあちゃんと駅を利用したときのことが「調べたきっかけ」に書かれていました。なぜこの工夫について調べようと思ったのか、はっきりした理由を書くと、

読む人はぐっとひきつけられ、興味をもって読むことができます。また、文章全体が読みやすくなります。なぜこのことについて調べようと思ったのか、よく思い返して文にしましょう。

学校の校舎に新しいスロープができた。だれが使うのかな？



Aさんの「スロープと手すり」を調べようと思ったきっかけ

駅前の道路がきれいになったら、黄色い点字ブロックも目立っていた。点字ブロックって、何のためにあるのかな？



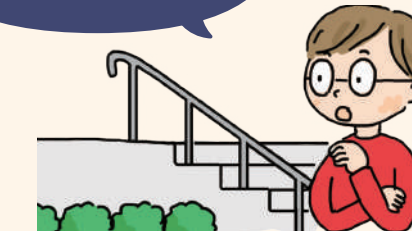
Bさんの「点字ブロック」を調べようと思ったきっかけ

家の近くの交差点で、ときどき「ピョピョ」って音がしている。何のためだろう？



Cさんの「音響装置付信号機」を調べようと思ったきっかけ

公園の階段は、ほかの階段より一段が低いみたい。どうしてだろう？



Dさんの「階段と手すり」を調べようと思ったきっかけ

駅のエレベーターにとびらが2つあったよ。どうして2つあるのかな？



Eさんの「駅のエレベーター」を調べようと思ったきっかけ

ポイント

「いつから？」「何のために？」「なぜ？」「どのように？」「どこに？」「だれが？」など、疑問に思ったことを、「調べたきっかけ」に書きいれましょう。

「きっかけ」を書くことは、ほかの作文でも大切!

作文を書くときには、書こうと思ったきっかけ（動機）がかならずあるはずで、「このことについて書こう」と思った理由を最初に書くと、つぎの文を書きだしやすくなります。自由研究や読書感想文を書くときにも、「きっかけ」を最初に書きましょう。



磁石って、どうしてよくつくところとつきにくいところがあるのかな？これを自由研究にしよう!